

第19回

福島県男女共生のつどい

あなたも わたしも みんな大事!!

in
会津若松

～すべての人が心豊かな人生を送る 共生社会へ～

記録集



AIZU



KYOUSEI

2020年11月14日(土)

會津風雅堂



目 次



1. プログラム	1
2. 実行委員長あいさつ	2
3. 開催地市長あいさつ	3
4. 来賓祝辞	4
福島県知事 会津若松市議会議長	
5. 開催要項	6
6. 講演	8
7. 開催地アピール	12
8. 開会・閉会セレモニー	16
9. 大会宣言	17
10. 次期開催地田村市あいさつ、出店紹介	18
11. アンケート結果	19
12. 「福島県男女共生のつどい」のあゆみ	25
13. 実行委員名簿、編集後記	26
14. スタッフの活動	27

1 プログラム

13:00 オープニング

白虎隊剣舞

会津若松市立一箕中学校剣舞部

13:30 開会セレモニー

主催者あいさつ

実行委員長

高橋節子

開催地市長あいさつ

会津若松市長

室井 照平 様

来賓祝辞

福島県知事

内堀 雅雄 様

会津若松市議会議長 清川 雅史 様

14:00 講演

「ランドセルが運ぶ 夢と出会い」
～羅羅屋会津工場の歩みと未来～



株式会社羅羅屋

代表取締役

安東 裕子 氏

15:05 開催地アピール ～男女共同参画社会への取り組み～

会津若松市立第二中学校三年

高倉 早紀 様

アイネット株式会社

上野 和枝 様

株式会社三義漆器店

曾根 佳弘 様

会津若松市男女共同参画推進実行委員会

皆川 誠治 様

15:40 大会宣言（案）提案、採択

15:45 閉会セレモニー

次期開催地あいさつ

田村市

民謡「会津磐梯山」

華葵



16:00 閉会

2 実行委員長 あいさつ

実行委員長 高橋 節子



会場の皆様こんにちは。ようこそおいで下さいました主催者を代表してご挨拶をさせていただきます。

本日は福島県知事、会津若松市長はじめ、関係機関の多くの方々にご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。東日本大震災から 10 年目となり、いまだ復興は道半ばで原発、台風、コロナ禍とダブルどころかトリプルパンチで心の痛い日々が続きます。リモート学習やテレワークなど、慣れない生活様式や働き方改革でマスク生活の日々となり、心なしか笑顔も少なくなってきたように感じます。次から次へと、あまりにも激しい世の中の変化や時代の流れの速さに呆れ果て、宇宙船にでも乗って地球の喧騒を見物してみたいような気分になりませんか？ しかし、現実には、災害やコロナ禍だけではありません。例えば、国内においては 2020 年のジェンダーギャップ指数が、日本は世界の中で 121 位であり、先進国では最下位です。

政策決定の場や企業の幹部等の登用に、あまりにも女性が少ないのです。

どうか皆さん、せっかく抜擢されても遠慮したり、チャンスの女神が微笑みかけても無視したりしないで下さい。奥ゆかしさは今では美德ではありません。声をかけられたら喜んで引き受けて下さい。自分をさらに成長させるよい機会です。そして志を高く持ち、常に努力研鑽しながら、政策決定の場や経済活動などに、ご活躍いただきたいのです。男女が共に力を合わせ、貧困や差別のない平和で幸せ溢れる福島を、日本を、引いては世界に貢献できるような人材を一人でも多く育て、次世代へと継承していける当り前の社会や文化を、構築していただきたいのです。「たとえ明日世界の終わりが来ようとも、私は今日一粒の種を蒔く」という言葉があります。皆様、男女共生社会実現の種を心の中に、今、さらに一つ蒔いてください。そして、ここからしなやかに、したたかに、実践してまいりましょう。

男性の皆様、今こそどうか勇気を持ってその懐の深さを、矜持をお示しく下さいませ。よろしくお願いいたします。

私達実行委員は、全員一丸となって真心込めて、今日の日の準備を進めてまいりました。各関係機関の多くの方々のご支援、ご協力、そして本日ご参加くださった皆様の勇気と情熱に心より感謝申し上げます。

限られた時間になりますが、先ほどの剣舞や、閉会セレモニーの会津磐梯山など、会津のおもてなしに、私共の熱い思いをお汲み取りいただき、どうかご自席で一緒にお楽しみくださいませ。

3 開催地市長 あいさつ

会津若松市長 室井 照平



第19回福島県男女共生のつどい in 会津若松の開催にあたり、開催市として一言挨拶を申し上げます。本大会は、男女共生の意識を広く皆様と共有するとともに、県民一人ひとりの日常に根付くことを目的に、これまで県内各地で開催されてきたものであります。

今回の本市での開催にあたり、市内はもとより、県内各地からお越しいただきました皆様を、心から歓迎いたします。また、開催にご尽力されました高橋実行委員長はじめ、実行委員やボランティアスタッフなどの関係者の皆様方には、深く敬意を表するものであります。

さて、会津若松市は、平成12年に県内で初めて「男女共同参画都市」を宣言し、本年2月に20周年を迎えたことから、市民の皆様と協働で記念事業を開催し、これまでの歩みを振り返るとともに、男女共同参画のさらなる推進に向けて決意を新たにしたいと考えております。こうした記念の年に、「あなたも わたしも みんな大事 ～すべての人が心豊かな人生を送る 共生社会へ～」をテーマに、本大会が本市において開催されますことは、大変意義深いことであると考えております。人口減少や価値観の多様化などにより、社会のニーズが多岐にわたっている現在、地域を持続的に発展させ、心の豊かさを実感できる社会をつくるためには、共生社会への確かな歩みがますます重要になっていると認識しております。

特に今年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、私たちの生活も新たな様式へと変化が求められ、家事・育児時間の増加、非正規雇用労働者の解雇や労働条件の悪化、不安やストレスによるドメスティックバイオレンスの増加など、男女共同参画に密接に関連する問題が顕在化したことにより、根強く残る性別による役割分担の意識や、働き方改革の真の必要性などが問われているところであります。こうした状況にある今だからこそ、一人ひとりが「共生」についてあらためて考えることが重要であり、本大会がそのきっかけとなり、共生社会の実現に向けた新たな一歩となることを願って止みません。どうか皆様方におかれましては、本日のご講演や開催地アピールなどを通して思いを共有していただきますとともに、多くのお仲間との交流・親睦を深められるなど、有意義な一日となれば幸いです。

結びに、本大会の成功とご参会の皆様の益々のご活躍とご健勝を心より祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

4 来賓祝辞

福島県知事 内堀 雅雄 様

(代理) 副知事 鈴木 正晃 様



はじめに、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた様々な取組にご協力を頂いている県民の皆様、事業者の皆様、関係の皆さんに、心から感謝を申し上げます。改めまして、第19回福島県男女共生のつどい in 会津若松の開催に当たり、お祝いを申し上げます。

また、皆様には、日頃から、男女共同参画の実践にご尽力を頂いており、深く敬意と感謝の意を表します。

震災と原発事故から9年8か月が経過する中、県民の皆様の懸命なご努力と国内外からの温かいご支援により、福島県は着実に復興への歩みを進めてまいりました。

本県の復興と地方創生を更に前進させていくためには、あらゆる分野において、誰もがその持てる力を存分に発揮できる男女共同参画社会の実現が不可欠であり、女性も男性も共に活躍できる環境づくりを進めていかなければなりません。

また、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、感染拡大防止の取組としてテレワークが普及するなど、これまでとは異なる働き方や、新たなライフスタイルの可能性が広がってきており、全ての人にとって、自分自身の暮らしを見直す好機であると考えております。

県といたしましては、こうした社会の変化に応じた男女共同参画社会を実現するための機運の醸成を図るとともに、企業経営者等の意識改革を目的とした講演会の開催や、男性の家事・育児・介護への参画促進に向けた情報発信など、積極的な取組を進めているところであります。

引き続き、全ての人が生きがいを持って自分らしく暮らし、活躍できる社会の実現に向けて、しっかりと取り組んでまいりますので、皆様には、更なるお力添えをお願いいたします。

結びに、今回のつどいを契機に、男女共同参画の推進に向けた機運がより一層高まりますことを祈念いたしますとともに、ご参会の皆様のますますのご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

会津若松市議会議長 清川 雅史 様



第19回 福島県男女共生のつどいが、ここ会津若松市において盛大に開催されるにあたり、会津若松市議会を代表いたしまして心から歓迎とお祝いを申し上げます。

高橋委員長をはじめ、実行委員会の皆様、また、本日県内各地からご参加をいただいた皆様方におかれましては、日頃よりそれぞれの地域において、男女共生社会の実現のため積極的に活動されご活躍されておられますことに、衷心より感謝を申し上げます。

さて、「男は仕事、女は家庭」というような言葉を、以前はよく耳にしていたと思います。「固定的性別役割分担」といいますが、「女性だから家事が得意で当たり前」「男性だから家族を養って当たり前」というような考え方は、性別を問わず互いをしぼり、無意識のうちに他人の可能性、また自分の可能性をも制限してしまう考え方であり、かつては、このような考え方が一般的な時代がありました。

このような中、皆様をはじめとする多くの方々のご尽力により、会津若松市民のみならず、県民の皆さんの意識も大きく変化し、すべての人、一人ひとりの個性を認め、尊重し、誰もが対等なパートナーとして協力し、社会参加につなげることで男性も女性も活躍の場が広がってきたように感じられるところであります。これは互いを尊重し支え合うという「共生」の趣旨がしっかりと根付いてきた証であり、皆様の活動をはじめとしたさまざまな取組の賜物であると考えております。

会津若松市議会といたしましても、市民一人ひとりが、その個性や能力を十分発揮することができる、男女共生社会の実現を目指し、行政と一体となって努めてまいり所存でありますので、より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本大会の開催にご尽力されました関係各位に感謝申し上げますとともに、男女共生社会の実現と、ご参会の皆様方のご健勝とご多幸をご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

5 開催要項

第19回福島県男女共生のつどい in 会津若松 開催要項

1 趣 旨

すべての人が、多様な生き方を互いに認め合い、生きがいを持って自分らしく安心して暮らせる男女共生社会の実現を目指し、「第19回福島県男女共生のつどい」を会津若松市で開催します。

この男女共生のつどいは、2002年に福島県女性団体連絡協議会の主催により開催され、その後、県内各市町村の有志が実行委員会を組織し、男女共生の意識を広く県民の皆様と共有するとともに、一人ひとりの日常に根付くことを目的に開催のバトンをつないできたものです。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、今年度は開催が危ぶまれておりましたが、新しい生活様式の実践による感染予防対策を徹底しながら、今できる“会津若松らしい”大会を開催することといたしました。

福島県では、東日本大震災や昨年の中日本台風の爪痕が今も残る中、全世界的な感染症の流行が復興の歩みに新たなブレーキをかけることになりました。こうした困難な時期だからこそ、互いを尊重し支え合う『共生』の大切さに共に思いを寄せる機会が必要と考えます。

今大会は、『『あなたも わたしも みんな大事!!』～すべての人が心豊かな人生を送る 共生社会へ～』をテーマに、誰もが性別にとらわれることなく、互いに尊重し合い、心豊かに生きられる共生社会を目指すとともに、「誰もが唯一無二の大事な存在」というメッセージを広く発信する契機といたします。

2 テーマ

「あなたも わたしも みんな大事!!」～すべての人が心豊かな人生を送る 共生社会へ～

3 主 催

第19回福島県男女共生のつどい実行委員会

4 共 催

会津若松市 福島県女性団体連絡協議会 福島県男女共生センター

5 後 援

福島県、福島県PTA連合会、公立大学法人会津大学、市教育委員会、市区長会、会津若松商工会議所、あいづ商工会、公益社団法人会津青年会議所、会津よつば農業協同組合、市父母と教師の会連合会、市保育所保護者会連合会、市幼児教育振興協会保護者連絡協議会、福島民報社、福島民友新聞社、朝日新聞福島総局、毎日新聞福島支局、読売新聞東京本社福島支局、河北新報社、NHK福島放送局、福島テレビ、福島中央テレビ、福島放送、テレビユー福島、エフエム会津、福島県中小企業家同友会会津地区、社会福祉法人会津若松社会福祉協議会

6 日 程

令和2年 11月14日(土) 13:00～16:00 (開場 12:00)

7 会 場

會津風雅堂（会津若松市城東町 12-1 TEL.0242-27-0900）

8 参加対象者

福島県民・県内各団体会員・行政担当者等 約500名

9 内 容

(1)13:00～ オープニング(開会アトラクション)

(2)13:30～ 開会セレモニー

(3)14:00～ 講 演

講師 安東 裕子氏(株式会社 羅羅屋 代表取締役)

(4)15:05～ 開催地アピール ～男女共同参画社会への取り組み～

(5)15:40～ 大会宣言(案)提案、採択

(6)15:45～ 閉会セレモニー

・次期開催地あいさつ

・民謡 会津磐梯山

(7)16:00 閉 会

10 大会参加費 無料

11 申し込み方法

チラシの申込フォームでFAX、郵送、メール、インターネット申請サイトにより事前申し込み

※県内の男女共同参画等活動団体会員の方や行政の担当の方もチラシの申込フォームに沿ってお申し込みください。

12 その他

(1)託児 無料託児を開設(1歳以上未就学児対象、事前申し込み=11月6日(金)締切)

(2)手話通訳 当日は手話通訳があります。

(3)物産販売 会津の特産品を販売します。

(4)会場内での飲食はできません。昼食を済ませてからご来場ください。

13 申し込み・問い合わせ先

第19回福島県男女共生のつどい実行委員会

(事務担当:会津若松市役所 企画調整課 協働・男女参画室)

〒965-8601 ※住所不要

TEL 0242-39-1405 FAX 0242-39-1400

E-mail danjo@tw.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp

6 講演

ランドセルが運ぶ 夢と出会い ～羅羅屋会津工場の歩みと未来～

株式会社羅羅屋 代表取締役

安東裕子 氏

プロフィール

- ・ 札幌市出身
- ・ 1976 年
株式会社羅羅屋 入社
- ・ 2002 年
株式会社羅羅屋
代表取締役就任



子供達のため、地域のため、社員のため

「ララちゃんランドセル」として親しまれている株式会社羅羅屋は、安全・安心で高品質なランドセルづくりに定評があります。

羅羅屋は、東日本大震災直後の風評被害が多かった時期に、本社のある埼玉県川口市から会津若松市河東町に工場を進出し、地元を元気づけました。

代表取締役 安東裕子氏のもと、ほとんどが地元採用の社員(約80名)で、特に女性にとって個々の能力を生かせる魅力ある職場となっています。

さらに、地元社員のアイデアをもとにした会津の素材を生かした商品開発や、パリやニューヨークの展示会にランドセルを出展し、その品質の高さからも好評を得ています。

講演では、ランドセルづくりを通して「子どもたち・地域・社員」への思いをお話いただきました。

「福島県男女共生のつどい」の開催、誠にありがとうございます。この講演のテーマは、実は実行委員会の方が考えてくださいました。「ランドセルが運ぶ 夢と出会い」、とても素敵なタイトルですね。

ランドセルは、子どもの成長・学び・夢や希望・出会いと別れなど、思い出がいっぱい詰まった玉手箱のようなものではないでしょうか。会場にお越しの皆さまもランドセルにまつわる思い出をお持ちではありませんか？ そんなランドセルと私の出会いをお話しさせていただきます。

1、ランドセルとの出会い

1974年8月、現会長が「羅羅屋」を設立しました。そして10名ほどの小さな会社を手伝うことになりました。社名の羅羅屋の「ララ」はイタリア語で『まれな物』『貴重な物』という意味です。羅羅屋の「ヤ」は屋根の『屋』で、屋根の下でいろいろな人が集まって『まれな物』をつくり、販売していこうと名付けられました。創業当時、「ランドセル」は百貨店やカバン専門店で販売するのが一般的でした。当社は後発で、既存の店舗に入るのは容易ではありませんでした。そのため新しい販売方法として幼稚園や保育園を訪問することにしました。パンフレットの配布のお願いにかけまわり、園のバザーに何度も参加することで信頼関係が生まれ、保護者の推薦をいただくなどして、販売量が拡大していきました。売り上げが少しずつ伸び、2002年に、中国に会社をつくるために現会長が中国に駐在することになり、私は社長に就任いたしました。

2、思い出の詰まった、オーダーメイドランドセル

羅羅屋は日本国内で初めて『オーダーメイドランドセル』に挑戦しました。

「ララちゃんファンが欲しいと思うランドセルを提供したい。外注に頼らず自分達でランドセルを作れないだろうか。よし作ってみよう！」という思いが生まれてきました。業界でも 2000 年を契機に黒と赤のランドセルではなく、カラフルな色のランドセルが発売されるようになりました。少子化の影響も始め、更に使いやすい機能でファッション性も兼ね備えた高級カバンとして変身していきます。

そうなると競争です。外注先には頼らず、自分達で流行のデザインのランドセルを作るようになったのは 2001 年のことです。他社とは違う独自の商品が誕生しました。

素材の色、糸やへりの色、デザイン、大きさなどの豊富なバリエーションの中から、お子さまと一緒に選んでもらい、最後に刺繍で名前を入れる世界でひとつしかない、自分だけのランドセルの誕生です。今では『オーダーメイドランドセル』と言えば「羅羅屋」、「羅羅屋」と言えば『オーダーメイドランドセル』と言っていただけのようにまじりました。

四季には、春・夏・秋・冬とそれぞれの色があります。同じように『人』にも色があります。「好きな色」があります。「お子さまの好きな色を組み合わせよう」、そうやって親子で話し合っ作られたランドセルは家族にとって大切な思い出になります。

小学校生活は子ども達にとって、楽しいことや辛いこと、さまざまなことを経験し、大きく成長する、言わば人生の出発点です。その 6 年間に最も身近なランドセルだからこそ「自分だけのモノ」を選んでほしい。「モノを大切にする気持ち」を育んでほしい。そして、何よりも「家族で楽しんでほしい」という強い思いがありました。今では、このオーダーメイドランドセルがご家族の思い出が深いランドセルになっていることを、大変嬉しく思います。

3、ランドセルが運ぶ出会い

私が代表に就任した 2002 年から現在の主力商品「オーダーメイドランドセル」の取り扱いを開始しました。その後、2010 年、弊社に外資系の有名スポーツブランド会社から、



OEM(相手先ブランド製造の受注)のお話をいただきました。OEMも作るとなると、それまでの本社工場だけではとても生産が間に合いません。どうしても新工場を建設する必要が出てきました。そのような中、2011 年に東日本大震災が発生しました。私は、被災地の惨状を伝えるテレビで、被災地では「若い人たちの雇用の場がなくなった」という現状を知りました。そして、多くの悲しんでいる方々の姿を目にして衝撃を受けました。

実は、私は震災の半年前に事故で孫を亡くしました。まだ 4 歳でした。震災で悲しんでいる方々の気持ちが自分と重なり「私にできることはないか」と思い、福島県への立地を社員に相談しました。被災地に仕事を求める人がいるなら、そして、少しでも被災地のお役に立ちたいと、会津若松市を候補地に決め、市役所の方に現在の場所を紹介していただきました。

会津の歴史や文化を知るうちに、この土地はランドセルの聖地になる場所ではないかと思いはじめました。この自然豊かな会津でランドセルの工場をつくり、この地から子ども達の元に運んでゆく。

子ども達の走りまわる姿やご家族の笑顔のイメージが浮かんできました。まさしくランドセルが運ぶ夢との出会いを感じた瞬間でした。

4、笑顔が見える職場づくり

翌年 2012 年早々、春から急ピッチで建設工事が始まりました。施工していただいた地元の建設会社様には大変なご無理をお願いして、4 月着工で 7 月完成という早業でした。

そして 8 月からの操業が間に合うように現地社員の採用募集を開始しました。社員と共に夢のある『見える』工場づくりの始まりです。若い社員がここで「働きたい」と思ってくれる環境づくりに力を入れました。社員が笑顔で長く働ける職場を目指しました。

今では、おかげさまで社員も 82 名まで増え、男女比では男性が 3 割の 25 名、女性が 7 割の 57 名になりました。この男女比率は操業以来変わりません。会津若松工場の平均年齢は 30 歳と、とても若いです。私が会津工場に一番望んでいた若い人材は現在も保たれております。毎年、地元の高校生を中心に採用させていただいております。

操業開始の頃は、役付者は本社出向の 3 名でした。しかもその 3 名は部長以上であるだけでなく、会津の生活に慣れるのに必死であったため、会津の若い社員にとっては世代間格差もあり、とても自分たちの仕事の不満や個人の悩みを相談するには、難しいものがあったと思います。

そのような中で当初離職者が多かったのは、中間管理職・現場リーダーの不在が原因でした。そこで、4 年目に会津工場限定人事で、本社工場では考えられない人事ですが、会津工場採用者の中から役付者を任命することにしました。

5、さらに、女性活躍の職場づくりへ

私は、仕事に集中しやすいはずの男性社員の推薦を内心期待していましたが、会津の部長達からの推薦は、家庭があり、子育てをしながら勤務している女性社員でした。「本当に仕事と家庭を両立していけるのか」と戸惑いつつも、本人達的意思を確認して会津工場現地採用者の中から管理職として女性 2 名を任命しました。

この 2 名の女性管理職の誕生で、会社組織の基盤がまとまっていきました。その一つが職場環境づくりです。彼女たちは、就業規則にもとづく会津若松工場の社内ルールを作りました。『ララヤ ルール book』という冊子です。毎週の朝礼時に全員で唱和します。会社の就業規則は、読んでみても理解しにくいところがあります。特に若い人や新入社員ではなおさらです。そこで、このルールブックは、社会人としてのマナーや職場のルールについてとてもわかりやすく書かれており、人との付き合い方も教えてくれます。社員自身が上司からの指示ではなく常に向上心を忘れずに、自分たちで働きやすい職場づくりをしようと出来上がったものなので、これは本当に嬉しい出来事でした。

6、工場見学ができる会社

私は、東北の観光名所でもある「会津若松市」に念願のランドセル工場をつくるにあたり、全国各地の子ども達や保護者の方々を工場にお招きして、工場見学やモノづくり体験などを通じて、ランドセルに愛情を持って、モノを大切にする気持ちを育んでいただければと考えています。社員が生き生きと働いている姿を見て、工場見学にお越しいただくお客さま皆さまに楽しんでいただけたらと思っています。会津工場には最新モデルを並べ、背負い心地が体験できるショールームと、製造現場をすぐそばで見られる見学用通路をつくり、ランドセルづくりに精通した専門の案内係を配置しています。地域への恩返しの意味もあり、会津工場の見学や体験コーナーの案内パンフレットを全国各地に配り、工場見学を受

け入れています。子どもの元気な姿が、家族の物語の出発点となる。子どもから祖父母までが集まり、みんなで話し合う機会を提供しようとショールームや体験コーナーを準備しております。

そして、子どもたちに喜んでもらえるランドセルを一つひとつ丹念につくり続けています。このようなモノづくりと観光工場の特色が認められ、会津若松工場は4年前に「第2回ふくしま産業賞」を受賞する栄誉もいただきました。

7、ある手紙

さて、私が福島に工場立地を望んだ強い理由があります。ここで、9年前に届いたお手紙をご紹介します。ランドセルを購入されたお母様からのお手紙です。日付が2011年4月21日です。この年の3月11日にあの東日本大震災が発生しました。

「この度の震災で、せっかくオーダーメイドでつくって頂いたランドセルが、津波で流されてしまいました。大変悲しんでおりましたが、たまたま妹が羅羅屋さんに連絡を取ってくれて、娘のために新しいランドセルを作っていただきました。本来なら4月8日に入学式でしたが、何とか準備が進んで4月21日に入学式をむかえることができました。これも羅羅屋さんをはじめ、全国の方々の支援があったおかげです。本当にありがとうございました」

それから6年後の2017年3月に今度は娘さんからお手紙をいただきました。「私は6年前、東日本大震災にあい、津波でランドセルが流されてしまいました。一目ぼれして買ったランドセルが一瞬でなくなりました。もちろん大切な物も、住む家もなくなりました。避難所で窮屈な時間をすごしていた中、大きな箱が一つ届きました。その中には流されたランドセルと同じものが入っていました。あのどうしようもなく、怖くて辛かった時をかえてくれたのはララちゃんランドセルのおかげです。今ではもらった時よりも、しわや傷も増えて、中は空っぽのランドセルだけど、6年間私を見守ってくれたララちゃんランドセルの優しさは今でもたくさん詰まっています。本当にありがとうございました」

この手紙を読むたびに、ランドセルが幼い心を動かすものになったことに喜びを感じております。こうやって頑張ることができたのも周囲の皆さまのおかげです。いつも、あたたかい気持ちで見守っていただき、ありがとうございます。

8、夢は、ランドセルパーク！

今回の『新型コロナウイルス』で世界が、日本が、多くの人が、たくさんの企業が、辛く厳しい状況に置かれています。人生には実にいろいろあります。でも、生きているからこそ、様々なことがあるのでしょう。

夢があるから気力が生まれるのか、気力があるから夢を持ち続けることができるのか私にはわかりません。でも、子ども達が夢を持てるように私たち大人こそが夢をもちましょう。



私の夢はこの会津にランドセルパークを作り、ご家族が楽しめる場を提供することです。今回、こうして皆さまにお会いしてお話をさせていただいたことは、私のこれからの人生の支えになることでしょう。会津の皆さまとの出会いに感謝いたします。皆さまが、いつまでもお元気で過ごされますことを心よりお祈りいたします。

7 開催地アピール

令和元年度 会津若松市主催「男女平等に関する作文コンクール」中学生の部 最優秀賞

「男 女 平 等」

会津若松市立第二中学校三年 高倉早紀さん

日本という国は、歴史的に男尊女卑という社会通念が占めてきた。社会で学ぶ歴史上の偉人はほとんどが男性だった。

しかし、令和の時代に入ろうとしている今、昔と比べて日本は変わった。女性が働けるようになった。国内や世界的にも女性が活躍するようになった。女性だからこそできる、女性でもできる、性別なんて関係ないという考えはすばらしいと思う。

でも、男女の差はゼロにはできない。どうしても男性と女性は違う。スポーツでも男子と女子を分けるように、どんなにがんばっても違う。平等だが、平等ではない。

夫婦でもそうだと思う。私の両親は共働きで、毎日仕事をしている。しかし、家事はほとんど母がしている。こんな家庭は多いのではないだろうか。

学校でもそうだ。当たり前のことなのだが、女子と男子は区別される。男子に乙女心が分からないみたいに、やっぱり女子と男子は違う。国語の時間、恋の短歌を鑑賞したとき、男子は作者の女心が理解できないようだった。しかし逆に女子も男子を理解できない。なぜ男子がこんな行動をするのか分からないと相談を受けることもある。

このように全く違う性差を一緒にするのは難しいし、男女平等と言われると女性を意識しがちだ。けれども、男性が世界の人口の約半分を占めているのだから、ないがしろにしてはいけない。

男尊女卑が女尊男卑に変わっても意味がないからだ。

このように、男女の違いはあるというのが私の結論だ。でも男と女が分かり合えないというのは違う。ある、仲睦まじい夫婦が、夫婦円満の秘訣は何ですかと聞かれてこう答えていた。

「お互いに尊敬していることです。」

すごいなあと思った。この作文を書いていたら、頭の中にぱっと浮かんできた。

思うに、違うことを何でも同じくする、ということが平等ではないのではないか。それぞれの違いを否定したり正したりするのみならず、受け入れて尊重し、互いの良さを「認め合う」ことこそが本当の「平等」なのではないだろうか。

世界中の人々は男と女に分けることができる。男女平等は全ての人が平等ということだ。男と女に差はある。でも、気持ちが平等だったら平和だと思う。その平等な気持ちの一部が尊敬するということだと思う。

男女平等の社会を作りつつある日本。きっとみんな、同じことを考えていると思う。男女平等はいいことである、ということだ。

(平成 26 年度男女共同参画推進事業者表彰受賞) アイネット株式会社 専務取締役 上野和枝氏
(令和元年度男女共同参画推進事業者表彰受賞) 株式会社三義漆器店 代表取締役 曾根佳弘氏
(インタビュアー) 福島県男女共生のつどい実行委員会 吉田 恵三

会社紹介と職場環境づくりについて

上野) 当社は、会津若松市の本社をはじめ、県内外に 5 つの営業所を設け、男性 11 名、女性 16 名、計 27 名の社員が働いていて、緊急通報システムの運営をしています。

緊急通報システムは、高齢者の緊急事態に対応するシステムです。病気やケガ、火災の発生時に当社受信センターで通報を受信し、救急車や消防車の出動を要請し、親族へ連絡するものです。コールセンターは、365 日 24 時間稼働していて、年間約 2 万件の通報を受信しています。



上野和枝さん



社員のワークライフバランスがサービス品質に影響する為、社員の誰もが、生き生きと働けるよう、様々な取り組みをしてきました。その結果、平成 26 年に会津若松市男女共同参画推進事業者表彰を頂きました。

現在は、国連が提唱する S D G s に賛同し、「男女が共に活躍できる職場環境づくり」を目指しています。

パートから正社員へ登用し、女性管理職への登用実績もあります。当社の場合、365 日 24 時間シフトを回すには、社員間の協力が欠かせません。社員自身が、

雇用形態や性別に関係なくいろいろな業務にチャレンジするので、結果として管理職も性別に偏りがありません。営業や夜勤部門に女性を登用し、お元気コールは男性も行っています。

一人ひとりがいろいろな業務を習得することで、お互いの役割を補い合える体制づくりができ、その結果、性別を問わず育児・介護休業の希望が叶う体制が整い、男性社員の育児休業が実現しました。「社員の笑顔が、お客様を笑顔にする」をモットーにしています。男性も女性も共に活躍できる職場環境づくりを目指し、今後もさまざまな取り組みを続けて参ります。

曾根) 当社は、プラスチックと化学塗料でつくる合成漆器を量産・製造している会社です。老若男女が共に活動し、力を発揮しています。18 歳から 79 歳まで、男女比ほぼ同じで、3 割の女性が責任者として活躍しています。

私は、会社と社員が価値観を共有し同じベクトルにすることが重要と考えています。他者を思いやり、助け合い、支え合い、感謝するという具体的な行動をご紹介します。それは「人の質が品質、従業員の人格が会社」と思うからです。

①「ありがとう」と感謝を伝え合う活動として、ありがとうカードを書いた人がポストに入れ、社長が目を通し印鑑を押して、給料袋に入れます。

②地域清掃も、会社から鶴ヶ城まで歩いてゴミ拾い、往復 11 キロの距離を行っています。200 名が一緒に共感し合いながら、仲間を増やすために営業日にイベントを行います。

③人に喜んでもらえたかの MVP を全員アンケートで選び、その理由をシェアする表彰制度があります。

④第 5 工場までの皆を仲間にするために、「三義劇場」として動画を撮影し、各工場でお互いに働いてい



曾根佳弘さん

る姿を観て、お互いを理解できるようにしています。

⑤10年後はどんな会社になりたいのか、白紙を皆で埋めます。夢や10年後の姿を皆で発表し合います。

⑥社是を共有し、仲間と共に飛躍し、そのために今、三義劇場の一員としてその役を演じています。



(インタビュアー) 吉田恵三

男女共生の考え

曾根) 当社は、18歳～79歳までの社員が一緒に職場でがんばっています。

「1人が100歩進むより、100人で1歩進む。男子だけでも女子だけでもなく、皆で支え合って1歩踏み出そうと」と、意識し始めた時に、品質や生産性が上がると考えます。「モノ作りは幸せ作り、感動作り、喜び作り」です。

上野) 私自身、昨年までの3年間介護を経験してみて、やはり従前の働き方ができなくなり悩んだこともありましたが、ただその時に、同じような経験をした女性達が居て、理解し支えて下さいました。特に、所属している商工会議所女性会には、仕事と介護を両立した経験のある輝く女性が沢山いて、彼女たちが私のお手本でした。私のように、女性の場合は身近にロールモデルが

ります。

一方で、今以上に男女共同参画を進めるには、男性の育児・介護への参加率を高める必要があるでしょう。しかし、男性のロールモデルはまだまだ少ないのが現状です。これからは私たち女性が良き理解者となって、男性版のロールモデルを沢山作っていくことが必要ではないかと思っています。

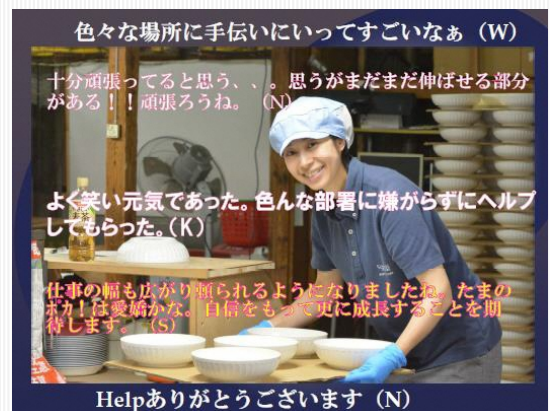
今後の抱負とアピール

上野) 当社の緊急通報システムは特に介護の分野、特に高齢者が要介護にならないための、早期発見治療の仕組みとしてお役に立てるのではないかと思います。今後は、他業種との連携や、ICTの活用で新たなサービスを構築し、介護と仕事を両立する人をサポートすることで、男女共生の一助になりたいと思っています。

心豊かな人生を送るために、お互いの立場を思いやり、笑顔の絶えない毎日を過ごしましょう。本日はありがとうございました。

曾根) 今、時代は持続可能な社会を目指すことが重要と言われています。当社は地球環境を考え、地球を守る漆器作りを始めました。「今だけ」「自分だけ」ではなく、今やっていることが世の中の役に立ち喜んでもらえるのか、幸せにするのか、何のために学んでいるのかを考えたいと思います。

ここにつどう皆さんは、学びの仲間であり意識の高い方々です。男女も認め合い、共に飛躍しましょう。



会津若松市男女共同参画推進実行委員会 委員長 皆川誠治氏

本会は、平成 25 年 6 月に設立し、今年 8 年目を迎えました。

男女差別のない地域社会の実現をめざすことを目的に、これまで、さまざまな事業に取り組んでまいりました。

今年 2 月、会津若松市は「会津若松市男女共同参画都市宣言」から 20 周年を迎えました。この都市宣言は、福島県内で最初に宣言されました。これは市民が主体となって取り組み、行政と市民が同じ土俵で意見交換しながら出来上がったものです。

平成 16 年に市民の思いが議会を動かし、県内で初めての議員提案によって「会津若松市男女共同参画推進条例」の制定が全会一致で可決しました。それを受けて「市男女共同参画審議会」ができました。委員はクォータ制で、男女同数としたことは大きな前進でした。条例に基づいて、5 年ごとにプランを立て、行政と市民がともに今も歩んでいます。これは、他に類のないことです。



皆川誠治さん



このような背景を受け、男性を交えて、当委員会が誕生いたしました。主な活動は「男女共同参画都市宣言」の掲額です。会津図書館、北会津ピカリンホール、河東公民館、會津風雅堂、市文化センターに掲額しました。昨年 9 月には、市の都市宣言 20 周年の記念として、市役所第二庁舎近くに看板を設置いたしました。この看板によって男女共同参画が推進され、思いが市民の皆様に浸透することを願っております。また、「会津若松市男女共同参画都市宣言のつどい」を開催しました。15 周年、20 周年の前年に、プレイベントとして 2 回の開催です。前千葉県知事で男女共同参画と防災・復興ネットワーク代表の堂本暁子氏を迎えての講演、「防災と男女共同参画」をテーマにしたワークショップ、福島大学の天野和彦氏を講師に迎えての防災講演などです。

また、會津稽古堂まつりでの寸劇「老いてなお」の上演、ジェンダーかるた劇の上演、女と男の料理教室「おとう飯、はじめよう！」の開催、会報の発行、研修会、公開学習講座やワークショップの開催。そして今年度は、20 周年記念誌の発行も予定しています。

今年の「世界男女平等指数ランキング」で、日本は 153 か国中 121 位です。先進国でも最低ランクです。原因の一つ目は、女性が意思決定の場に参画していないということがあります。参加ではなく、参画ということが大事です。参加は、ただ単に行動をともにすることで、参画は企画立案の段階から同席することです。原因の二つ目に、男性の関心の低さがあります。

これから重要となってくるのは、「女性の視点を入れる」ということではないでしょうか。男性も女性も、互いに認め合うことで、社会全体の空気が変わっていくように思います。まずは、家庭や企業、地域など身近なところから、空気を変えていきましょう。

8 開会・閉会セレモニー

開会アトラクション



会津若松市立一箕中学校剣舞部：白虎隊の演舞で会場が厳かな感動に包まれた



開会あいさつ
菅家美穂庶務



大会宣言



松嶋加代子
副実行委員長
が大会宣言を
読み上げた



閉会アトラクション



華葵：迫力ある歌声とお囃子に合わせて会津磐梯山を関係者が踊り、
閉会式に花を添えた



閉会あいさつ
田澤豊彦
総務副部長

9 大会宣言

わたしたちは、誰もが性別にとらわれることなく、互いに尊重し合い、心豊かに生きられる共生社会を目指し、『あなたも わたしも みんな大事！！』～すべての人が心豊かな人生を送る 共生社会へ～』をテーマに、ここ会津若松市において、第19回福島県男女共生のつどいを開催しました。

東日本大震災からまもなく10年、本県の復興は未だ道半ばにある中、2020年の幕開けとともに、新型コロナウイルスの感染が瞬く間に世界中に広がりました。人類は、有史以来何度も感染症の洗礼を受けてきましたが、こうした中においても、私たちは、「新しい生活様式」の徹底や「働き方改革」の推進など、「withコロナ」の考え方に立ち、力強く一步を踏み出さなければなりません。

わたしたちを取り巻く社会的要請や生活環境が大きく変化している、こうした困難な時代だからこそ、『共生』の大切さに思いを寄せ、一人ひとりが多様な生き方を認め合い、心豊かに安心して暮らせる共生社会の実現を目指すことを、ここに宣言します。

- 一 わたしたちは、性別にとらわれず、一人ひとりの人権を尊重し合い、自分らしく生きることができる「共生社会」の実現を目指します。
- 一 わたしたちは、あらゆる分野において男女が共同で参画し、共に助け合い、心豊かに暮らせる「共生社会」の実現を目指します。
- 一 わたしたちは、持続可能な未来のために、SDGs（持続可能な開発目標）に取り組み、誰ひとり取り残さない「共生社会」の実現を目指します。

2020年11月14日

第19回福島県男女共生のつどい実行委員会

10 次期開催地 田村市あいさつ、出店紹介

田村市男女共同参画審議会会長 博多泰子氏



本日は、ここ会津若松市での「男女共生のつどい」に参加させていただきましたこと、心より御礼申し上げます。

今年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催が危ぶまれる中でのご準備となり、実行委員会の皆様のご苦労は並大抵のことではなかったものと思います。委員の皆様やご協力された方々の「会津魂」と言ってよいかわかりませんが、その熱い思いが、本日の開催に繋がったものと思い、とても感動しております。

令和3年は、田村市で開催をいたします。田村市は2005年に5町村が合併してできた市であり、今年で市政15年を迎えました。

来年、「福島県男女共生のつどい」の第20回目という年に開催できること、また、2011年の東日本大震災、東京電力第一原子力発電所事故から10年という節目の年でもありますので、開催にあたり少しでも節目に相応しい大会ができるよう、また、新型コロナウイルスの影響がどこまで続くか見通しが立たない状況ではありますが、本日の会津若松市に見習い心からのおもてなしをしたいと思います。田村市にてお待ちしております。

来場者が楽しんだエントランスホール



株式会社 羅羅屋



株式会社 三義漆器店



アイネット株式会社



会津路菓子処 白虎堂



NPO法人 会津地域連携センター



荒井工芸所

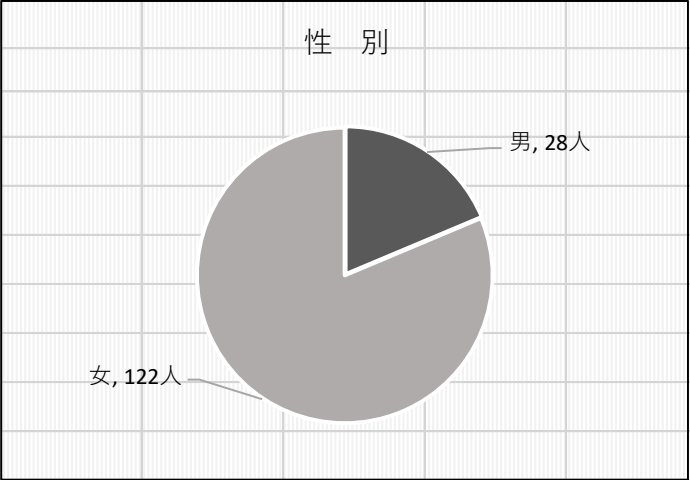
11 アンケート結果

第19回 福島県男女共生のつどい アンケート集計結果

(250)名の来場者のうち、 (150) 名から回答をいただきました。(回収率 60 %)

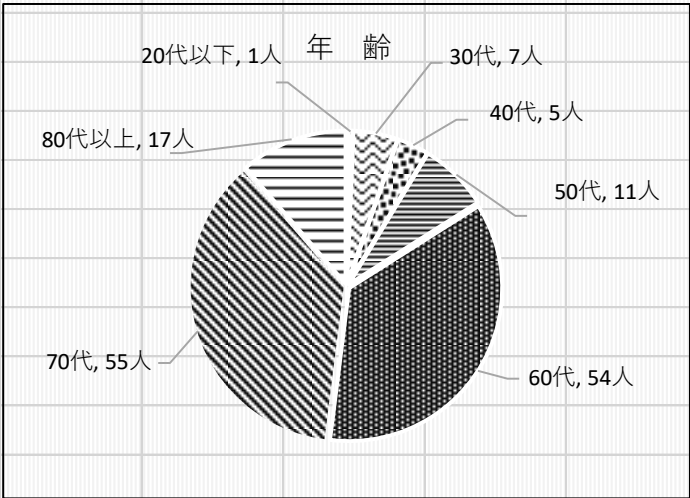
1. あなたの性別は(性自認)

男	28人
女	122人
そのほか	0人



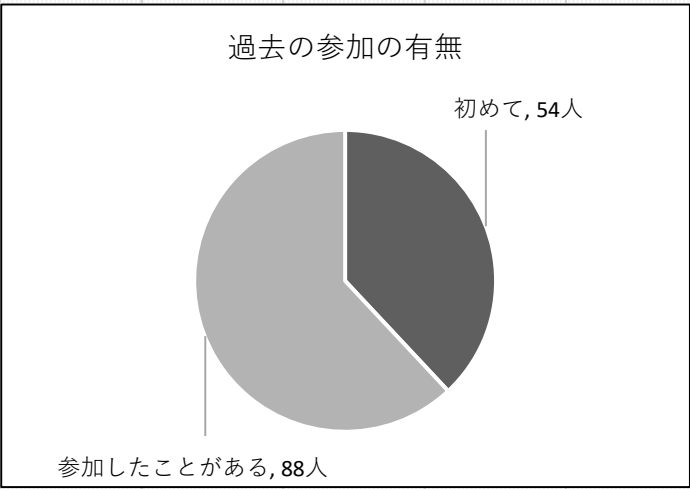
2. あなたの年代は

20代以下	1人
30代	7人
40代	5人
50代	11人
60代	54人
70代	55人
80代以上	17人



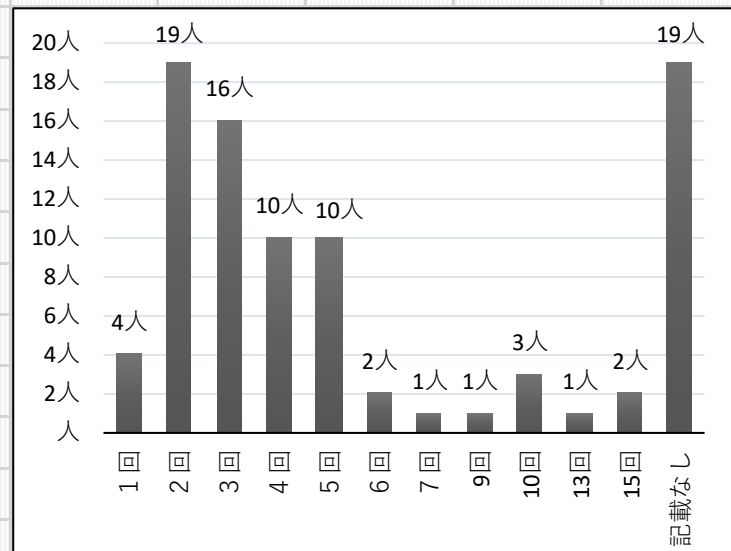
3. 「福島県男女共生のつどい」の参加は

初めて	54人
参加したことがある	88人



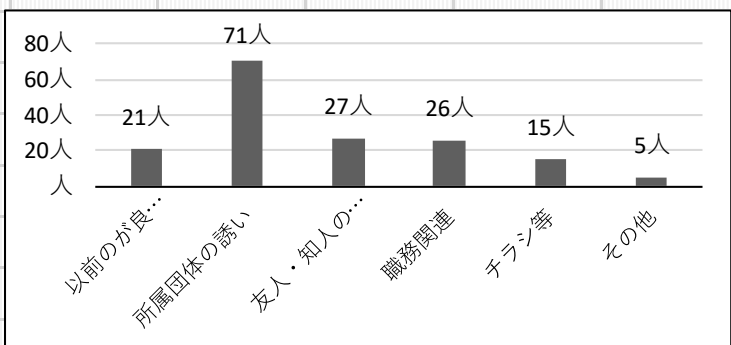
【参加したことがある人の参加回数】

1回	4人
2回	19人
3回	16人
4回	10人
5回	10人
6回	2人
7回	1人
9回	1人
10回	3人
13回	1人
15回	2人
記載なし	19人
合計	88人



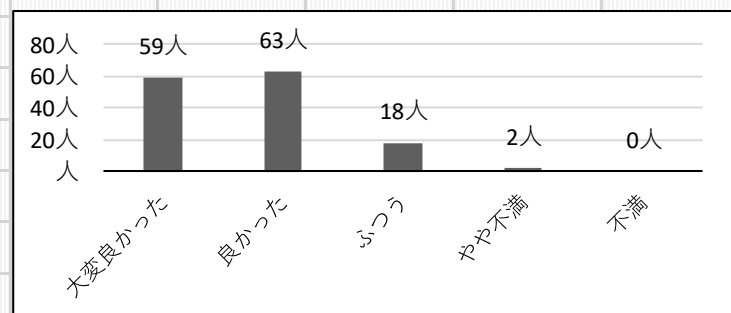
4. 参加したきっかけは

以前のが良かったから	21人
所属団体の誘い	71人
友人・知人の誘い	27人
職務関連	26人
チラシ等	15人
その他	5人



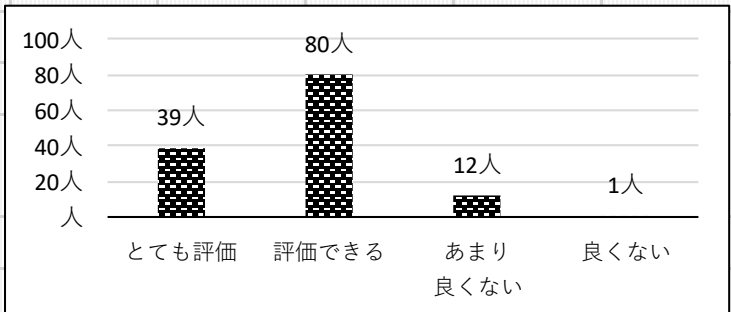
5. 講演について

大変良かった	59人
良かった	63人
ふつう	18人
やや不満	2人
不満	0人



6. コロナ禍の中での開催について

とても評価	39人
評価できる	80人
あまり良くない	12人
良くない	1人



講演会に対する意見・感想

No.	参考になった点・ご意見・感想等
1	安東様の講演、大変感動した。
2	安東社長の実直なお話に聞き入った。工場と会場を中継でつなぐ方法も分かりやすかった。「子どもに夢を持たせたければ大人が夢を持たなければならない」心に残る言葉。
3	夢がいっぱい詰まったランドセル。子育て中に子どもの気持ちを考えられなかったことを反省した。孫の成長にランドセルの思いを託して楽しみたい。
4	声を詰まらせてする講演に胸がいっぱいになり、良い話だった。
5	孫たちのランドセル生活は終了したが、一度見学したくなった。
6	羅羅屋さんを何度か見学していたので、講演を楽しみにしていた。若い方々の働く職場でとてもすてきで、これからも子どもたちの夢となるランドセルを作ってほしい。
7	会津若松市内の地元によくの影響を羅羅屋さんはもたらしめていると感じた。地元の人材育成、地域の活性化、あらためて企業誘致の重要性を感じた。
8	これから生まれてくるかもしれない孫のために、羅羅屋からのランドセルにしたいと思った。
9	講演の中で、人材の育成について話を聞いて、女性も（男性も）働きやすい職場で、とても素晴らしいと感じた。
10	講演は慣れていないと思いましたが逆に心がこもっていて良かった。ものづくりは幸せづくり、感動づくり、夢づくりだ。納得！
11	羅羅屋さん、工場とのL I V E 中継がすばらしかった。社長さんのお話も良かった。
12	震災の時、ニュースや新聞を見て、絶対「羅羅屋のランドセル」と思って福島から家族で河東の会社に出かけて作ってもらった。大正解。孫に自慢できる。
13	羅羅屋さんのランドセル作りにかける熱意が伝わり感動した。物作りは人づくり、男性も女性も性別に関係なく協力し合うこと、それが働きやすい職場なんだろうと思う。今年2年生になった孫も両親とオーダーメイドのランドセルを注文したので、孫たちにも夢を与えていただいた。これからも益々のご活躍と会社のご発展を祈る。
14	安東様のお話に感動した。また、会津に来ていただき雇用にも貢献いただき、感謝である。女性ならではの視点での経営が参考になった。
15	孫はランドセルを背負って毎日学校へ通学していることをうれしく思う。
16	羅羅屋の女性の多い職場での参画の工夫、意欲の持ち方、働きやすい環境づくり、さらに地域に溶け込んだ会社づくりに感銘を受けた。
17	講演はランドセル造りへの夢やビジョンが明確であり、具体化していく実行力が素晴らしい。特に人事環境のジェンダーへの配慮が効果を上げていることを明確に生かされたこと、事業拡大の方法も参考になった。
18	会津にランドセル工場があるのを知らなかった。一度、見学してみたいと思った。生力を持ってこれから元気で生きていたい。
19	羅羅屋さんは企業として素晴らしいと思った。元々はアイディアマンなのでしょうが、そのことから多くの人の意見を参考にして活躍しているのが理解できた。
20	講演の中で「工場の立地場所を震災で大変だった会津若松を選んでくれたこと、地元の女性が役員になったこと」など、素晴らしいことだと思った。
21	誰もが使用するランドセルに子どもたちの気持ちを組み込んだ素晴らしい夢のある仕事を頑張っている講演が良かった。
22	いろいろな気づきや思いがあった。男女の能力の違いのない職場、女性の感性を生かし、使い手の身になった物を製造する職場など、その特性を生かせること、男女ともに認め合えることが大切だ。
23	大変良い講演会だった。いつも講演となると眠ってしまいがちだが、眠るどころか、次はどうなるのかな？と思いつつ聞いていた。
24	講演内容について、時間的な余裕があったので質問の時間があっても良かった。

開催地アピールでの意見・感想

【作文発表】

No.	参考になった点・ご意見・感想等
1	作文の内容をスクリーンに映し出しても良かった。内容はとても胸に響いた。
2	男女共同参画については、小学生からの教育が大切だと思った。
3	平等について、しっかり自分で考えている。学校での教育の成果と思える。
4	哲学的なまとめ。中学生でここまで考えられることに驚き！
5	互いに尊敬する気持ち、平等は互いの尊重が大事で男女平等。
6	男女の性差はあってもお互い認め合い、尊敬することが大事。
7	中学生が男女平等について深く考えていて素晴らしいことだと思った。
8	夫婦がうまくいく秘訣はお互いに尊敬、が印象に残った。
9	認め合う心、感謝の心が不満解消の原点。とても素晴らしい発表だった。
10	落ち着いて良い発表。「お互い尊敬と認め合う」大事である。
11	中学生の素直な気持ちが伝わってきた。
12	男女の話を平等にできるには、との問題点をアピールされた。
13	共感できる内容→若者の意識を大事に育てよう→大人が支える。
14	男女の違いを認識して男女が共に満足できる社会を理想として目指している。
15	内容が整っていてお見事。会津若松市の名をあげたことに間違いはない。

【アイネット㈱】

No.	参考になった点・ご意見・感想等
1	女性のロールモデルは良く知っていたが、その男性版ロールモデルが必要ということ。
2	女性の立場で勇気をもらった。
3	介護が必要な方へのサービスを提供されている会社の取組がよく分かった。
4	ワークライフバランス、生きることプラスαになるのではないかな。
5	再雇用制度。自己チェックシートは個人の向上につながる。
6	電話でお話するとき、社員の方の心が相手に写ってしまう。社員教育が大切。
7	男女の不平等が無く、障がい者への働く場所も。
8	パートから正社員への登用、性別に関係なく、チャレンジアップシート
9	育児、介護に男性もかかわっていくことが必要。
10	男女の差が無く、離職率も低い。働きやすい職場。ワークライフバランスの整った職場。
11	育児・介護が女性にかかっている。←みんなで考える。お互いの立場を尊重する。
12	今の時代のニーズに合った仕事。とても感動した。1人暮らしのため利用したい。
13	高齢者社会に必要な。頑張っていたきたい。
14	近くにこんな素晴らしい会社があるとは。
15	パートから正社員、管理職登用へ、説得力を感じる。
16	人命を尊重し、救助を含め、24時間対応に感銘を受けた。
17	女性の方も夜勤されているのは本当に大変だが、男女共同参画を実現されていて素晴らしい。
18	女性のハンデを取り除こうと会社ぐるみの取組が素晴らしい。

開催地アピールでの意見・感想

【㈱三義漆器店】

No.	参考になった点・ご意見・感想等
1	一人ひとりが同じベクトルに向かうことができるシステムが素晴らしい。
2	褒める点を探して書いてポストに入れる⇒給料袋にそっと入れる。すごくいい。
3	三義さんは「気づき」を促すことで思いやりを育てる。参考になった。
4	会社の取組がとてもよく分かり、自分もできることからやってみたいと思った。
5	10年後、こんな会社になりたいと皆で読むのは賛成。とても参考になる。
6	会社と社員の意見が同じ。清掃活動を社員がやる。
7	価値観を共有することが良い。皆が仲良く素晴らしい。
8	企業は人なり。素晴らしい。掃除の大切さ。共に飛躍。
9	会社側と働く人の価値観の共有。清掃を利用して話のできる場を作る。（素晴らしい清掃活動をしていること。）
10	社長の誠実さが伝わった。このような方がトップで次の世代等を導いてくれる。希望が持てる。
11	10年後の未来を見据えた経営理念が素晴らしいと思った。
12	お誕生日祝い金やケーキを送る企業が増えていると思う。地域清掃も多くなったと思う。良いことである。
13	社員思いの会社、ごみ拾いの光景見たことがある。
14	社長の会社を愛する心が強く感じ取れた。
15	全員が輝く会社を目指す。みんなの努力で良い会社を。皆で頑張ること。モノづくりは人づくりだと思う。
16	未来が明るくなること間違いない会社。うらやましい。
17	1人の100歩より100人の1歩。夢のある会社だと思った。
18	18～79歳、委員会活動、清掃活動、「共に飛躍しましょう」、10年後の夢

【会津若松市男女共同参画推進実行委員会】

No.	参考になった点・ご意見・感想等
1	私の町でも見習いたい。
2	都市宣言を具体化していることは素晴らしい。委員長の問題意識もいい。
3	20年前からの活動にびっくり。男性・女性の意識改革必要。一家で実践。
4	県内で1番目とは素晴らしい。市民主体を参考にしたい。
5	女性の活躍の場をなかなか実現できない。女性の参画できる社会になれることを望む。
6	市民への啓発活動が毎年開催され、市民運動になっている点が素晴らしいと思った。
7	防災や老いetcから男女共同の視点の活動、見習いたいことが多かった。
8	身近なところから、できることから、男女共生社会を目指していこうと勇気をもらった。
9	会津若松市の取組を知り、これからも男女共生頑張っていきたいと思った。
10	一般の方々にもっと届くように、PRのチャンスを広げてほしい。大変でしょうが、頑張ってください！
11	女性が意見を言えるような環境（認め合う）
12	男女共同参画について再認識した。
13	空気を変える。意識改革の大切さ。
14	コロナ禍の中での活躍、素晴らしい！
15	空気を変えていくためにも、男女お互い積極的な参画に向けて頑張りましょう！
16	若松市の取組に郡山も負けられないと思った。
17	「ジェンダーかるた」や「おとう飯はじめよう」、会津の取組素晴らしい。
18	力強い発表で、誇りに感じた。

全体運営等に対する意見・感想

N o .	参考になった点・ご意見・感想等
1	コロナ禍の開催、大変なご苦労があったと思う。オープニング後の休憩時間が長かったのは、密を避けるため（買い物）ということはあるが、早く進め、終了を早めにしていただけたほうが良かったのではないかな。
2	大事なコメントは文字表記していただけると嬉しい。
3	耳の不自由な方のための手話の気配りも良かったと思う。
4	来年度の田村市のあいさつ良かった。楽しみ。
5	行事等中止が続く中の開催のご判断は多くのご苦労があったと思う。感染対策をしっかりとされ全体的にととても良い内容だった。
6	コロナウイルスが無ければ、もっとお土産店が出店されたはずである。
7	このようなワークを開催し続けることの大切さに改めて気づいた。
8	30代、40代の男女の出席が少なかったのは残念だったが、行き届いた運営だった。
9	男女共同参画の先進地会津若松だと思った。
10	コロナの中、少し心配。
11	開催地の物産展示販売は楽しみだし、アピール性があると思う。
12	高橋実行委員長の挨拶が、目的、女性の現状などが明確になっていてとても良かった。聞きやすい声で分かり易かった。
13	田村市のようなキャラクター人形欲しい。
14	こんな良いつどいがあまり知れ渡っていない。PR不足。意識改革が必要。
15	13:10からの15分はもったいない。日が短いのでつめてほしかった。
16	法被を着て道案内板を掲げていただき分かりやすかった。
17	開催地アピールの両社の考え方・対策等は、一般の男中心の会社にこそ訴え、広めたい。女性が頑張っても管理職男性の理解力不足はないか？ 県職員、地方職員など公共の施設はどうか？
18	長い時間なので、もう少し楽しい時間もほしい。笑ったり身体を動かしたり…。
19	コロナの終息を願っている。コロナの中の開催ができたこと、とても喜ばしい。実行委員さんたちの努力に感謝。
20	市の中では良いが、他の市での参加はコロナ禍中で参加するか大いに迷った。
21	福島県男女共生のつどいに携わった役員の方々に感謝する。今後のために、①スピーカーの音量が低かった。②進行間の時間の取り方を考えてほしい。
22	関係者のきめ細かなご配慮などが行き届いたつどいで、最高で有意義だった。コロナ禍の中で特にご苦労が多かったと思う。次回も楽しみにしている。
23	残念なことはマスクをかけての話だったので聞き取れないことがあった。

12 「福島県男女共生のつどい」のあゆみ

昭和54年～平成5年 「福島県婦人のつどい」を毎年開催

平成6年～平成13年 「福島県女性のつどい」を毎年開催

平成14年～ 「福島県男女共生のつどい」

回／開催年度	開催地	目標・テーマ
第1回(H14年度)	二本松市	のびやかに生きる男女の参画社会
第2回(H15年度)	三春町	のびやかに生きる男女の参画社会
第3回(H16年度)	原町市	のびやかに生きる男女の参画社会
第4回(H17年度)	下郷町	お互いの個性がひかる共同参画
第5回(H18年度)	白沢村	男女がともに輝く社会に～安達から新たなチャレンジ～
第6回(H19年度)	白河市	カンセイの改革～白河から吹く新しい風～
第7回(H20年度)	郡山市	みんな生き生き、心に愛を！ ～響かせようひろげよう男と女とのハーモニー～
第8回(H21年度)	いわき市	共に生きるこころ～つながる ひと・まち・しごと～
第9回(H22年度)	会津若松市	社会参画と生活の調和 ～みんな笑顔のハッピーチャレンジャー～
第10回(H23年度)	(福島市)	(東日本大震災発生により中止)
第11回(H24年度)	福島市	震災・原発事故と私たちの暮らし ～男女がともにすすめる復興への道のり～
第12回(H25年度)	二本松市	安全・安心してくらせる福島をめざして ～新しい社会の創造とわたしたちの役割～
第13回(H26年度)	二本松市	たちあがろう、男女がともに健康であり続けるために
第14回(H27年度)	二本松市	学び・育み・支え合う社会へ
第15回(H28年度)	二本松市	わかりあう社会づくりへ～福島の水産の現状とこれから～
第16回(H29年度)	二本松市	女性も、男性も、輝く社会づくりへ ～ふくしま男女共同参画の実現に向けて～
第17回(H30年度)	白河市	すべての人が自分らしくいきいきと ～誰もが生きやすい社会をめざして～
第18回(R1年度)	福島市	互いに支え合い歩む未来へ ～差別・偏見のない共生の社会～
第19回(R2年度)	会津若松市	あなたも わたしも みんな大事!! ～すべての人が心豊かな人生を送る 共生社会へ～

13 実行委員名簿・編集後記

第19回福島県男女共生のつどい実行委員会組織

役員会（6名）

実行委員長
副実行委員長
庶務
庶務
会計
総務部会長（庶務兼任）
企画・広報部会長

高松遠菅小遠武
橋嶋藤家原藤藤
節加代子
は美孝はる子
は美孝はる子

監事
武藤 みや子
岸 敏 恵

総務部会（14名）

部会長
副部会長
庶務
部員

遠田片浅鶴大小野
藤澤岡田川山崎原藤木木田本
はる彦美誠子子子子子子子一博
は豊輝 サツ子子子子子子子子子
は豊輝 サ享行孝千智久利眞

企画・広報部会（15名）

部会長
副部会長
部員

武原吉小菅清小佐高橋伴堀皆山
藤田田倉畑家川池竹橋本野 川崎
良ま恵孝 美雅せ信義博キ美誠捷
子三郎匠穂史子幸人子子子治子
り太 美つ ミ恵

編集後記

今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて開催が危ぶまれましたが、こんな時期だからこそ、会津若松市から元気と男女共生への思いを発信しよう！と、10年ぶりでの開催を実行委員会において決定されました。

かつてない戸惑いの中、コロナ感染対策の影響はイベント企画や物販・会場使用など大会開催の各処に制限が及ぶこととなりました。

内容は、講演会と開催地アピールの二本立てとしました。会津の伝統の良さに加えて現在の企業や団体の秀逸な取り組みや活動等について、発表も映像やオンラインを取り入れた斬新なものとなりました。

計画・準備、そして当日の運営が滞りなく実施できたことは、実行委員の皆様のご協力と労を惜しまないご尽力のお陰です。また、共催団体や後援団体の皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

この大会が、男女共生社会実現への未来に向けての新たな一歩となりますことを祈念いたします。

企画・広報部会長 武藤良子

14 スタッフの活動



にこやかな笑顔で来場者を迎えました



入念なスケジュールの確認



スムーズな司会と手話通訳の連携



ステージ担当者の役割を最終チェック



撮影部隊も大活躍



配布パンフレット作業は全員で



入場者への体温測定



【主催】 第19回福島県男女共生のつどい実行委員会

【共催】 会津若松市 福島県女性団体連絡協議会 福島県男女共生センター

【後援】

福島県、福島県PTA連合会、公立大学法人会津大学、市教育委員会、市区長会、会津若松商工会議所、あいづ商工会、公益社団法人会津青年会議所、会津よつば農業協同組合、市父母と教師の会連合会、市保育所保護者会連合会、市幼児教育振興協会保護者連絡協議会、福島民報社、福島民友新聞社、朝日新聞福島総局、毎日新聞福島支局、読売新聞東京本社福島支局、河北新報社、NHK福島放送局、福島テレビ、福島中央テレビ、福島放送、テレビユー福島、エフエム会津、福島県中小企業家同友会会津地区、社会福祉法人会津若松社会福祉協議会